



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 93 号

2011.10.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

お知らせ

－高原の自然館内展示パネルの入れ替え
について

活動報告

－霧ヶ谷湿原 秋の生き物観察会
－霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）

観察会案内

－キノコ観察会
－サツキマス保全の試み
－生物多様性セミナー
～北広島の自然を考えよう～
－ゴギの観察会

お し ら せ

●高原の自然館内展示パネルの入れ替えについてのお知らせ

10月から、高原の自然館内の展示パネルの一部
が入れ替わります。紅葉したブナ林の様子と冬鳥達
の姿をお楽しみください。

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

開催日時:2011年9月17日(日)9:30

講師:岩見潤治・大竹邦暁・和田秀次

台風の接近で天候の心配はありましたが、霧雨が少しある程度でときどき晴れ間も見られる中、高原の自然館に27名が集まりました。今回の講師は岩見先生、大竹先生、和田先生です。今回の観察会は、八幡湿原のひとつでもある、霧ヶ谷湿原における自然再生事業の仕組みとその後の変化の観察です。

歩き始めてすぐ、八幡の代表的な木であり、赤い実をつけるカンボク、かわいらしい花を咲かすアケボノソウ、別名ジイソブとも呼ばれ、「じいさんのそばかす」で盛り上がったツルニンジンなど、湿原の外側からもたくさんの生き物を見つけました。

霧ヶ谷湿原に入っただけはうっそうとした場所が続きます。ここは再生事業が行われる前からあったヤブだそうです。その中で、ハート模様を身にまとったカメムシや、長旅をしてきたアサギマダラなど、はじめましての仲間たちにもたくさん出会いました。

木道があらわれると景色ががらりと変わります。アブラガヤやオタカラコウ、ツリフネソウ、キセルアザミなど、湿原生植物がたくさん観られるようになります。途中、参加者から、「湿原を再生する意味はあるのか？」という質問があり、その答えとして、和田先生は、「地球の生物が減少している。その原因は様々であるが、原生の自然が壊れていることは確か。湿原も同様で、生物の減少を防ぐためにも、湿原を再生させたほうがよい。」ということをおっしゃっていました。学芸員の白川さんも、「森は多くあり、森に生きる生物は森に帰ることができるため増えている。一方、湿原は減少していて、湿原特有の生物たちはどんどん減っている。また、湿原再生は、その周辺地域の洪水を防ぐことに大いに役立つ。湿原再生は保全だけでなく、防災、今回のようなレクリエーションなどの多面的価値を生み出す。」ということを語っていました。

帰りはアスファルトの車道を歩いて帰りました。普段ならただ歩くだけの道も、たくさんを知ってから見ると、がらっと景色の印

象が変わりました。見たり触ったり匂ったり、感じながら「知る」って大事だと、わかってはいたものの、今回の観察会で改めてその大切さを知ることができました。

今回の観察会ではいきものだけでなく、湿原における河川改修、導水路、観察路、伐採、側溝改良の5つの事業が実施された様子を見ました。その中で、植物を移動させるのではなく、環境を整え、あとは自然に生えてくるのを待つだけ、というこの再生事業の特色を実際に見て体感しました。同じ湿原でも、場所によって生育する植物が違ったりして、様々な湿原の様子を感じたのですが、この様子も年々変わっていくそうです。書ききれないほどの魅力が八幡の自然にはあふれていて、まだまだ知りたいことばかりです。これからももっと感じ、知り続けていきたいと思えます。(しんばらゆき)

※観察会での採集は、広島県及び北広島町から許可を得て行っています。



高原の自然館で、八幡湿原全般の話聞いてから出発。



霧ヶ谷湿原には、タムラソウ、アブラガヤなど、湿った場所を好む花が咲いていた。



ツルニンジンの解説をする大竹先生。



河川での工法について説明する和田先生。もとは三面張りコンクリートの水路だったが、側壁を壊し、石が置かれた。



霧ヶ谷湿原の入口で、アサギマダラに出会った。

【みなさんの印象に残った物】

「エゴネコアシアブラムシ」「ツリフネソウを触ったら中から種がはじけてびっくりしたのが印象に残っています。(3)」「初めて出会った草花、水中生物、トンボ」「講師の先生方の誠実な説明が心に残りました。」「湿原の再生が皆さんの多くの知恵の結集で成功してとてもうれしく思う(4)」「ムカシトンボの幼虫とマアザミ、アケボノソウが一番いい時だった。(2)」「花がたくさんあってうれしかったです。」「カンボクの実が大変きれいでした。(2)」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「生き物のこと、再生事業のこと、いろいろ聞いてよかったです。(3)」「動植物の全てに名前があって、そういう形になった理由もあって、”ふつうのカマキリ”、”ただの咲いてる草花”から見る目が変わりました!」「湿原再生の意義について学ぶことができました。次回の散策が楽しみです」「今まで知らなかった植物や生き物の名前がわかり、目の前でその名を呼びながら観察できたのがすばらしかったです。」「先生の説明がとてもわかりやすくよかったです。(3)」「初秋の湿原を楽しく歩けました。(2)」「地元にながら知らない事が理解できて良かった。(2)」「動植物との関係が一度に見られてよかった」「今日は霧雨の中、霧ヶ谷湿原を歩いてみて変化があって良かったです。湿原生の植物も沢山見られて良かったです。」



水生昆虫の説明をする岩見先生。川底をガサガサと探してみると、サワガニやムカシトンボがいた。

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原の植生調査 (秋)

開催日時:2011年9月25日(日)9:30

講師:白川勝信

秋の涼しい風が吹く中で、日差しはじりじりと暑かったのですが、気温は低く、大変過ごしやすい季節になりました。今回は秋の植生調査、ということで参加者は9名。講師は和田先生、佐久間先生、白川先生でした。はじめに調査の仕方を教えていただき、3チームに分かれて作業を行いました。

植生調査は、湿原再生事業が行われたことで、どのような変化があったかを知るために大変重要な作業です。私は今回初めて参加させていただきました。作業の流れは、まずチームに振り分けられた担当プロット1m×1mの範囲の中でどのような植物があるかをリストアップしていきます。その後、それぞれの植物の高さ、被度(プロット内のどれくらいの割合を占めているか)、群度(どのように自生しているか)をメモしていきます。ミゾソバ、マアザミ、ツリフネソウなど様々な植物が観察されました。私以外の参加者の方はみなさん植生調査の経験者だったためか、調査はスムーズに進みました。みなさん植物の名前をたくさん覚えていて、あれだ、これだ、と指していく様子はとても格好良かったです。

今回は植生調査が大きな目的ですが、それに伴って、植物を観察しながら、「どうしてこのような名前か?」「見分け方は?」といった話の盛り上がりが大きかったようでした。

全体の結果は、昨年同時期の調査とは様子が大きく変化したところが多くありました。外来種が減って、湿原生の植物が増えているところもあり、喜ばしい結果がいくつか見られました。しかし、一部では水がうまく行きわたらず、地面が乾燥していて、フランスギクのような外来種が多く生息しているような場所もありました。「このような場所は今後考えていかなければならない。」と和田先生はおっしゃっていました。

『再生事業が自然破壊の原因になることもある。』それを防ぐためにも、再生事業の効果を確認するためにも、植生調査は大切なものであるし、続けていかなければならないそうで

す。今回、実際に植生調査をしてみて、たった一年で生育している植物や周りの様子が大きく変化していることを実感するとともに、逆に、まだ課題が残る場所も存在することを確認しました。今後も植生調査を通して、年々変化していく湿原の様子を記憶だけでなく記録として残し続けていきます。(しんばらゆき)



晴天のもと、みんなで出発!



最初の調査地点では、全員で調査方法の確認と、種の確認をした。



設置された1m × 1mの調査区(プロット).



2 班は和田先生.



3つの班に別れて調査開始. こちらは3班.



散策をする人がやってきた時には, 広い木道や枝になった部分で離合した.

【みなさんの印象に残った物】

「似ている植物の区別の仕方を教えてもらって良く分かりました.」「アブラガヤが大変増していた事.」「湿地が川の流れているところがあり, なんらかの手を入れる必要があるかも知れない.」「植物の共生できる力と光合成のすごさ.」「変化していつていることの説明を受けて興味深かった.」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「結実している種が多く, 種の観察等もできて良かったです.」「年々変化が見られて楽しかったです.」「秋の調査は初めてなので来年とくらべるのが楽しみです.」「多様な植物の戦略に感心した.」「知らないことだらけでおもしろかったです.」



佐久間先生が指導する1班の調査風景.

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● キノコ観察会

開催日時：2011年10月8日(土) 9:30
集合場所：聖湖キャンプ場入口駐車場
講師：川上嘉章
準備：基本セット、キノコを入れるかご(ビニールの袋より通気性の良いかごが良い)
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

秋のお楽しみはキノコ！観察会時に採取した変わったキノコ、おもしろい形のキノコ、見たことあるけれど名前が知りたいキノコなどを専門家の先生に見ていただき、名前を聞いたり、キノコの生態を教えてください。キノコを採集するカゴをお持ちください。

● サツキマス保全の試み

開催日時：2011年10月10日(月) 9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

八幡の川には産卵のため遡上してくるサツキマスが生息しています。観察するだけではなく、サツキマスの生態を知り、保全の手だてを考えます。内藤先生から詳しい講義を聞いたあと、実際に川に行きサツキマスを観察・計測し、産卵できる場所に放流します。

● 生物多様性セミナー

～北広島の自然を考えよう～

開催日時：2011年10月10日(月) 14:00
集合場所：山麓庵
講師：白川勝信
準備：筆記用具
定員数：30名
参加費：無料

北広島町が進めている生物多様性戦略を、参加者のみなさまとともに学び、戦略との関わりを見つけるセミナーです。最初に高原の自然館の白川学芸員が、生物多様性についてわかりやすく解説します。その後みなさんから意見を述べていただきながら、身近にある自然を生物多様性の観点で見つめてみましょう。どなたでも参加できますので、気軽にご参加ください。

● ゴギの観察会(大朝)

開催日時：2011年11月3日(木) 9:30
集合場所：大朝公民館(北広島町大朝支所内)
講師：内藤順一
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

大朝公民館でスライドを見ながらゴギについて事前勉強を行います。その後ゴギが生息する川に移動し、ゴギや産卵場所をじっくり観察しましょう。歩きやすい服装でお越しください。

9月に入り、台風が過ぎる度に秋が深まっていくのを感じました。セミ達に代わり、外からは秋の虫達の鳴き声が聞こえてきます。千町原に行ってみると、真っ白なススキの穂が一面に広がっていました。風に吹かれて揺れている様は、まるで白い海原を見ているようでした。また、小さな黄色い花をたくさんつけるアキノキリンソウや、水路の傍では、タンナトリカブトが見られました。毎年行われる草刈りや火入れのおかげで見ることが出来るこの風景を、いつまでも残していきたいものです。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info